

V 総合考察

我が国が障害者の権利に関する条約を批准してから7年程が経過したが、この7年程の間には、障害者差別解消法や改正発達障害者支援法の施行、高等学校などにおける通級による指導の制度化など、さまざまな法改正や制度化があった。

その中で、本研究「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」（平成28～令和2年度）は、教育現場、そして教育現場を支える教育委員会が、それぞれの地域や園・学校におけるインクルーシブ教育システム構築に向けた取組状況を把握し、さらに取り組みべき事項などが明確になる指標の提案を目指して取り組んできた。

平成28～29年度において作成したインクルーシブ教育システム構築のための「評価指標（試案）」を、平成30年度には、研究協力機関である園・学校での試行を経て、「インクル COMPASS（試案）」として修正・改善を図った。令和元年度には、研究協力機関において、修正・改善した園・学校用「インクル COMPASS（試案）」を活用した主体的取組の事例収集を行い、併せて、園・学校用「インクル COMPASS」とその活用の意義及び活用可能性を提案した。

そして、研究の最終年度となる令和2年度は、令和元年度に収集した園・学校の取組事例をまとめた事例集を刊行するとともに、研究協力機関や地域実践研究参画地域などの協力を得て、教育委員会用「インクル COMPASS（試案）」の修正を重ね、教育委員会用「インクル COMPASS」を作成した。教育委員会用「インクル COMPASS」も園・学校用と同様、他の地域と比較するためのものではなく、それぞれの地域の実情や取組を把握し、見通しを持って、今後の方針や施策を具体的に検討するためのツールとなることを目指して作成したものである。

園・学校用「インクル COMPASS」については、研究協力機関での使用を通して、

- ①自校（自園）の強みを自覚することができること
 - ②自校（自園）の課題を確認することができること
 - ③自校（自園）の本質的な課題を見出し、取組の方向性を明確にすることができること
- の3点を使用の意義として挙げることができた。

そして、「インクル COMPASS」の活用方法としては、

- ①校内（園内）研修会の企画の参考や校内（園内）研修用教材としての活用
 - ②校内（園内）委員会での検討資料としての活用
 - ③学校経営計画（学校経営方針）などの検討資料としての活用
 - ④特別支援学校での校内連携のためのツールとしての活用
- の4点を提案した。

また、教育委員会用「インクル COMPASS」の活用の可能性としては、

- ①インクルーシブ教育システムの推進に関わる施策の検討材料
- ②地域のインクルーシブ教育システム構築に向けた状況把握
- ③都道府県教育委員会における市町村教育委員会などへの支援体制、市町村教育委員会に

おける園・学校などへの支援状況の確認

④教育委員会内での情報共有のツール

の4点を挙げたが、今後、園・学校用「インクル COMPASS」と併せて活用することで、検証されることを願っている。

本研究及び地域実践研究の実際的取組から、園・学校が主体的にインクルーシブ教育システム構築・推進に主体的に取り組むための要件について考察し、以下を挙げた。

①管理職のリーダーシップ

②機能的な校内支援体制と教職員間の相互協力体制

③校内研修などを通じた教職員の専門性向上と授業づくり

④地域に開かれ、地域と連携した特別支援教育の充実

また、地域実践研究に参画した教育委員会の課題と取組を踏まえて、園・学校のインクルーシブ教育システムの構築・推進に関わる主体的取組を支えるために、教育委員会に期待されている事項として以下を挙げた。

①効率的な連携体制の整備と情報発信

②学校種や職種に応じた研修の企画・実施

「インクル COMPASS」の項目の検討にあたっては、平成24年7月の中央教育審議会初等中等教育分科会の「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」の中で示された「障害のある子供と障害のない子供が、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである。その場合には、それぞれの子供が、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていけるかどうか、これが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要である。」、この子供の姿をイメージした視点を園・学校用「インクル COMPASS」、そして園・学校の取組を支える教育委員会用「インクル COMPASS」に、どのように盛り込むことができるのか、苦慮した点である。

現在、各地域、園や学校においてインクルーシブ教育システムの構築に向けた様々な取組がなされている。これらの主体的かつ創造的で、地道な取組状況を振り返ることで、その取組の価値や意義を確認し、さらなる取組を推進していくためのツールとして、「インクル COMPASS」が、教育委員会や園・学校で活用されること、実践が展開されていくことを期待する。そして、各地域、園や学校での取組によって、「インクル COMPASS」がより実行性のあるツールとしてインクルーシブ教育システムの構築・推進の一助となることを願っている。